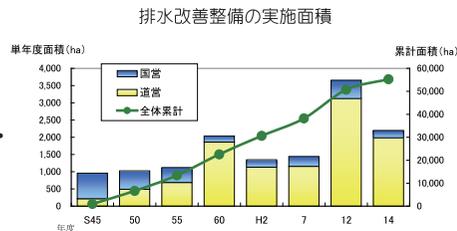


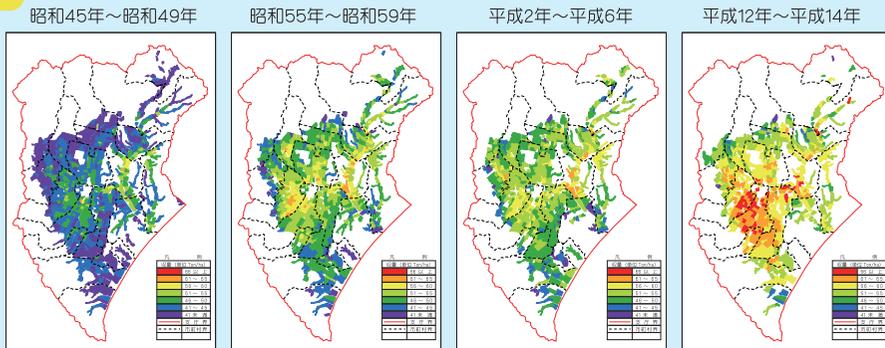
作物の収量や品質が向上

てんさい 甜菜でみる排水整備の効果

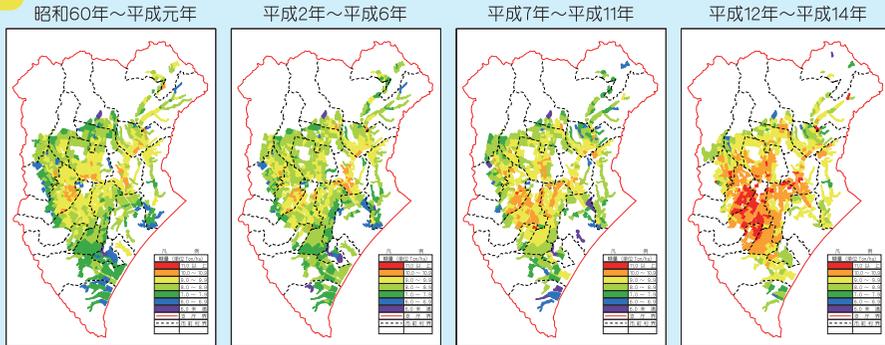
十勝管内は、甜菜（ビート）の道内一の生産地です。長年にわたり排水改善などを行ってきたことで、収量・品質が向上しています。



収量



品質



てんさい 甜菜（ビート）って??



ほうれん草と同じアカザ科に属したカブのような作物です。根には多くの糖分を含み、1kgの甜菜から約170gの砂糖がとれます。砂糖の原料といえばサトウキビを連想しそうですが、実は北海道でもたくさん作られているんですよ。

資料：北海道十勝支庁農業振興部 「てんさいの収量、糖分、糖量の推移からみた土地基盤整備事業の効果」（平成17年2月）

農産物のブランド化

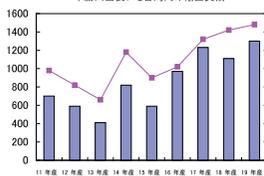
農業農村整備は、各地の農産物のブランド化（高付加価値化）にも貢献しています

十勝川西長いも 特許庁の「地域団体商標」取得第1号（H18）



十勝では寒暖の差が激しいために、粘りが強く歯ごたえの良いものが育ち、国内出荷にとどまらず、台湾へも輸出出荷量は順調に伸びています。

十勝川西長いも台湾向け輸出実績



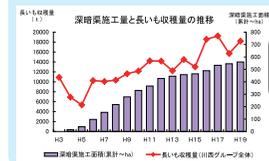
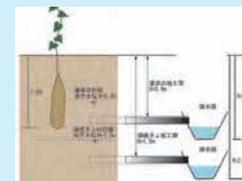
「北海道新技術・新製品開発賞」



“ながいも酢”

長いも栽培に適した暗渠排水を実施～深暗渠

この地域の長いも栽培機運の高まりに応え、通常の深さの暗渠排水（0.7～1.0m）から深暗渠（1.2m程度）を実施。



深暗渠の施工とともに、収穫量が増加

排水改良とともに、「畑地かんがい」を導入



畑地かんがい施設をはじめとした総合的な整備により、天候に左右されず、高品質なタマネギの出荷が可能となりました。



かんがい灌漑することによって、収量が10%以上アップ！

元気に育ったタマネギ



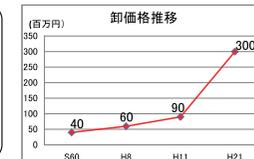
北見オニオンスープ



NPO法人 北海道パイオ産業振興協会 <http://www.hobija.jp/>

日本一のタマネギの生産地である北見市が、メーカーとの共同研究で、昭和59年に開発。

『エア・ドゥ』からの打診を受け、機内販売やサービスドリンクとしても採用され、高い評価を受けています。



資料：北海道十勝支庁農業振興部 「てんさいの収量、糖分、糖量の推移からみた土地基盤整備事業の効果」（平成17年2月）

冷湿害にも強い農地づくり

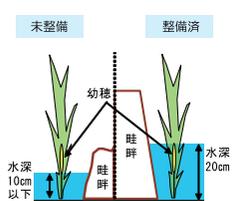
平成21年7月の低温・長雨は、北海道の農業に大きなダメージを与えました。しかし、その中でも農業農村整備事業により排水対策を行った農地では、被害を最小限に食い止めたことがわかっています。

水 稲

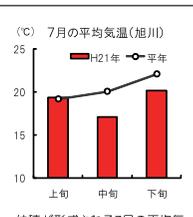
北海道が低温・日照不足に見舞われた7月は、水稻栽培において最も低温に弱い「減数分裂期」と重なり、不稔米が増加、収穫量の減少や品質低下などの被害を受けました。

その中で、用水量の確保と畦畔の整備により「深水かんがい」を実施できたほ場では、冷害の影響が軽減されました。

深水かんがいは



不低温期に気温よりも水温が高いことを利用して、水田に通常よりも多くの水をため、低温による幼穂の生育障害を回避するための水管理方法。



幼穂が形成される7月の平均気温が平年より低く、不稔や登熟不足などの低温障害に見舞われました。

未整備



不稔が生じ穂が立ったままの状態 (9/25初山別村)

整備済



正常な穂の状態 (9/25初山別村)

上川中南部における調査結果



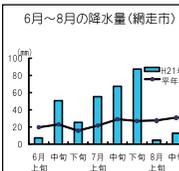
・収量 作況指数は83
・1等米比率 平年を100とした場合

基礎整備を行った農家に対するアンケート調査の結果

「深水管理が実施可能なほ場では、冷害の影響を軽減することができた」
冷害を軽減できた (85%)
(収量面 59%)
(品質面 8%)
(収量・品質両面 18%)

畑作物 (小麦)

7月は畑作物の生育期と重なったため、収量の減少や品質低下の被害を受けましたが、暗きよ排水の整備を行ったほ場では、湿害の影響が軽減されました。また、降雨後速やかに農作業を行ったことにより被害が軽減されました。



昨年の7月における降雨量は平年の2倍以上であり、小麦においては収穫期と重なり適期に作業が行えませんでした。

未整備



湿害により倒伏が発生 (8/5和寒町)

整備済



適期に収穫が行えている (8/6網走市)

上川中南部における調査結果

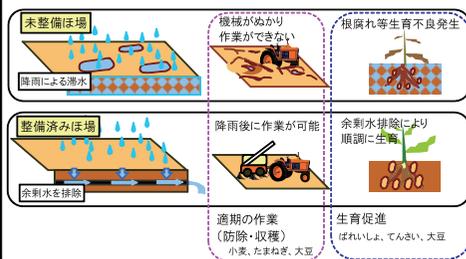


収量・品質とも畑地帯の小麦品質 平年を100とした場合

基礎整備を行った農家に対するアンケート調査の結果

「適期の農作業や余剰水の排除が可能となり、湿害の影響を軽減することができた」
整備した効果があった (94%)
(収量・品質両面21%)
(作業性面49%)
(収量品質・作業性両面23%)

暗きよ排水の効果



新たな「き・ず・な」をもたらす

農業農村整備を行った農家の方々より

- ほ場が大きくなり大型機械が効率よく作業できるようになった。
- ほ場の排水性が良くなり、収量・品質の改善や適期作業が可能となった。
- 土壌条件の改善により、多様な作物の作付けが可能となった。

との声があがっています。



資料：北海道農政部「基礎整備を実施した農家の声」(平成22年3月)

■余剰時間ができた

■農業収入が安定した

■地域で連帯感が生まれた

各地域で広がっています

直売所で安全・安心な農産物の提供



■余剰時間の発生や良質な農産物が採れるようになり、生産者の顔が見える新鮮で安全・安心な農産物を消費者の方に直接提供ができるようになりました

■消費者の方の「おいしい」との言葉で地域のみんが「やりがい」や「いきがい」を共有ができ消費者の方との「き・ず・な」が生まれています

都市住民と農家との交流の輪



■余剰時間の発生や地域で連帯感が生まれたことによりグリーン・ツーリズムなどによる都市住民の方とふれあう(交流)機会を増やせるようになりました

■地域の農家の人達とのふれあいや、農作業体験を通じて、都市と農村が近いものとなり、都市住民と農家との「き・ず・な」の輪が広がっています

「グリーン・ツーリズム」って?

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のことで、聞いたことはあっても、まだまだ一般的にはあまり知られていない言葉だと思います。

単なる観光旅行とは異なり、手に入れる感動もより深く、大きなものになるのが「グリーン・ツーリズム」の大きな魅力です。

欧州では、農村に滞在しバカンスを過ごすという余暇の過ごし方が普及しています。英国ではルーラル・ツーリズム、グリーン・ツーリズム、フランスではツーリズム・パール(緑の旅)と呼ばれています。

